



CX263

取扱説明書



Ver 1.0




安全のために

この製品を設置、使用される前に必ずお読みください。










お使いになる方や周囲の方々への危害、財産への損害を防ぐため、下記の内容を守ってこの製品を安全にお使いください。本書はいつでもご覧になれる場所に保存してください。

本書で使用する記号について






 警告	この記号は取扱を誤ると死亡や重傷、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。
 注意	この記号は取扱を誤ると負傷、機器の損傷や物的損害の原因になる可能性がある内容に付いています。

 	「必ず守ってください」という強制を表しています。
	「絶対にしないでください」という禁止を表しています。

警告

-  **本書をすべて読むこと**
この製品を設置、使用する前に必ず本書をすべてよく読み、本書の内容にしたがってください。
-  **確実に接地すること(アース)**
感電を防止するため、確実にアースに接続してください。
-  **水分をかけたり湿気にさらさないこと**
この製品の上に花瓶や飲み物など、液体が入ったものを置かないでください。この製品を直接水がかかる場所に置かないでください。また湿度の高い場所に置かないでください。感電や火災、故障の原因になります。
-  **電源コードは安全に配置すること**
電源コードをストーブの近くなど高温になる場所に設置しないでください。また踏んだり物に挟んだり、無理な配線を行うと、電源コードが損傷して火災の原因になる場合があります。また足など体の一部を引っかけるような場所に配置しないでください。負傷の原因になる場合があります。
-  **本体を落下しないこと**
本体の故障はもちろん、周囲の方が負傷する原因になります。
-  **電源コードを濡れた手でさわらないこと**
感電の原因になります。
-  **大音量で使用しないこと**
この製品をアンプやスピーカーなど他の機器と組み合わせ、大音量を再生しないでください。一時的または恒常的な難聴の原因になる場合があります。
-  **移動するときはケーブルをすべて抜くこと**
電源コードや接続ケーブルを接続したまま本体を移動しないでください。ケーブルを傷めたり、周囲の方が転倒する原因になります。
-  **本体内部に水分や物を入れないこと**
火災や本体故障の原因になる場合があります。この場合は修理をご依頼ください。

警告

-  **製品内部の調整は専門の技術者が本書の内容にしたがって行うこと**
火災や感電、けが、故障の原因になります。本体の内部にはお客様が操作する部分はありません。
-  **異臭や異常を感じたら修理を依頼すること**
正常に機能しない、電源コードやプラグに異常がある等の場合は、修理をお申し付けください。
-  **長時間使用しないときや落雷の危険があるときは電源プラグを抜くこと**
火災や感電、故障の原因になる場合があります。
-  **本体の換気用開口部をふさがないこと**
本体内部の温度上昇を防ぐため、この製品の表面には換気用開口部があります。この開口部をふさぐと適切に換気ができず、内部の温度が上昇して故障や火災、誤作動の原因になる場合があります。
-  **本体の内部や周囲で可燃性ガスのスプレーを使用しないこと**
ガスが滞留して引火による火災などの原因になります。

注意

本体付属の専用電源アダプターを使用すること

他の電源アダプターを使用すると、本体が故障する原因になります。

本体は安定した場所に設置すること

本体を不安定な場所に設置すると、落下などによる故障の原因になります。

高温になる場所に設置しないこと

この製品を摂氏 35 度以上になる場所に置かないでください。本体が故障する原因になります。

ファンタム電源は適切に操作すること

ファンタム電源は対応するコンデンサーマイクを接続したときだけ供給してください。

ファンタム電源スイッチは接続しているアンプをミュートしてから操作してください。

本体の上に乗ったり重い物を載せないこと

製品の故障の原因になります。

操作部や入出力端子に無理な力を加えないこと

本体の故障やお使いになる方がけがをする原因になる場合があります。

アクセサリーはメーカーが指定した物を使用すること

本体の仕様に合わないアクセサリを使用すると、故障の原因になる場合があります。

テレビ、ラジオ、携帯電話の近くで使用しないこと

この製品またはテレビやラジオなどに雑音が入る場合があります。

適切に設定すること

この製品はさまざまな内容を広範囲に設定することができます。設定内容を誤ると接続している機器が損傷する原因になる場合がありますので、ご注意ください。

場合があります。

電源コードは必ずこの製品に付属のものを使うこと

適合しないものを使用すると通電中に電源コードが加熱し、火災の原因になる場合があります。

目次

- 1 はじめに…1
 - ①製品の概要…1
 - ②ダイアグラム…1
 - ③開梱…2
 - ④設置…2
- 2 背面の機能…3
 - ①マイク入力…3
 - ②ステレオライン入力…4
 - ③リモート出力…5
 - ④ステレオゾーン出力…5
 - ⑤モノラルゾーン出力…5
 - ⑥マイク 1 アクセスコンタクト…6
 - ⑦音楽ミュートコネクター…6
 - ⑧シリアルインターフェース…6
- 3 前面の機能…7
 - ①電源スイッチ…7
 - ②音楽ソースセクター…7
 - ③音楽レベルつまみ…7
 - ④マイクレベルつまみ…7
 - ⑤マイクイコライザー…7
- 4 オプションモジュール …8
 - ①シリアルインターフェース CDI-S200…8
 - ②BOSE スピーカー用アクティブイコライザーモジュール…9
- 5 仕様…10

1 はじめに

①製品の概要

ステレオ/モノラルゾーンミキサー Cloud CX263 は、1 ステレオゾーンと2 モノラルゾーンの出力を装備しています。6 系統までのラインレベル音楽信号とマイクを2本、1つのステレオゾーンと2つのモノラルゾーンに送る用途に適しています。

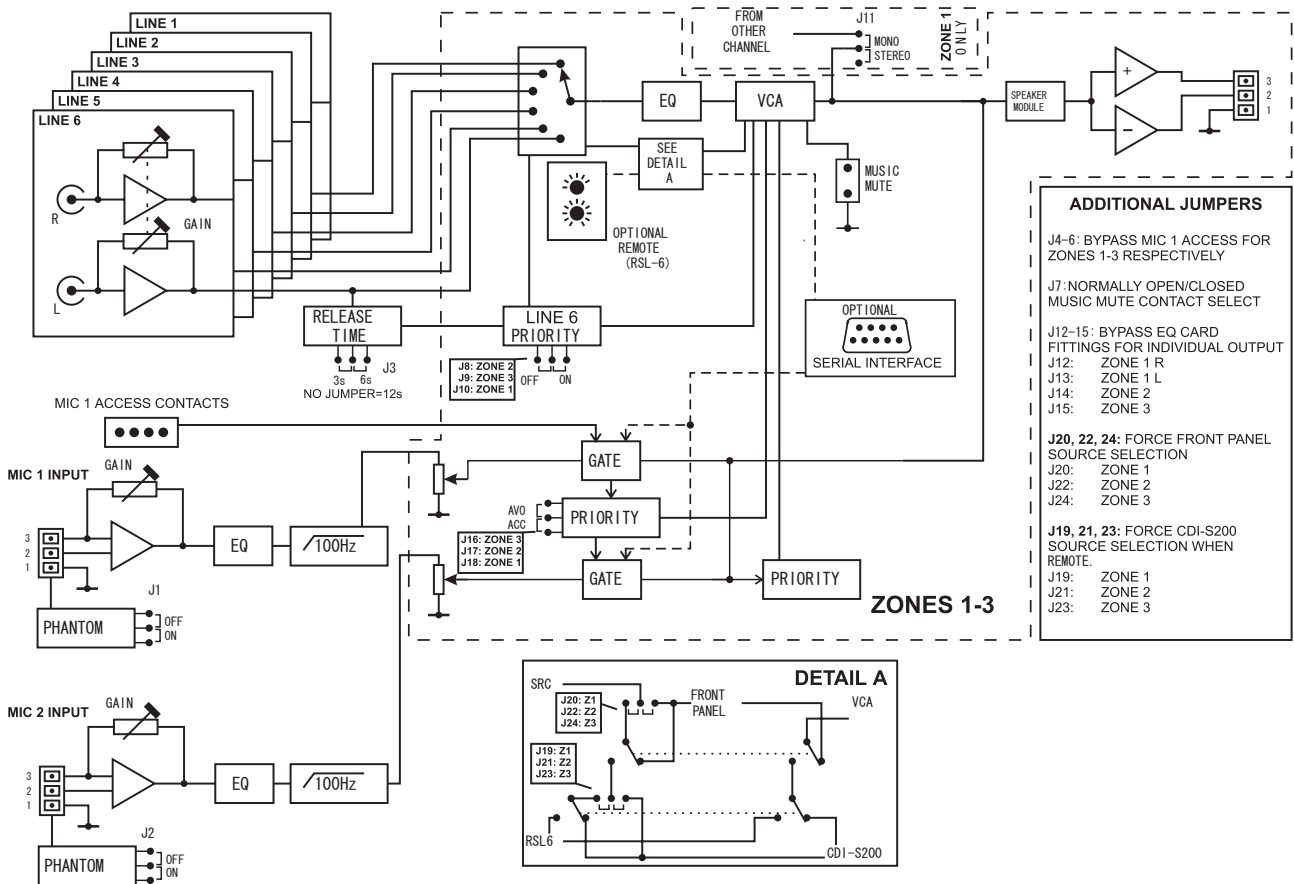
さらに、CX263 の柔軟性を高める別売アクセサリをご用意しています。

- ・ シリアルインターフェースカード…各ゾーンの音楽ソース選択/レベル調整、音楽ミュート、マイクミュート、各ゾーンのマイク1アクセス
- ・ 壁面リモコンパネル…ステレオゾーンの音楽レベル調整用
- ・ アナウンス用チャイム付き専用4ゾーンページングマイク
- ・ BOSE スピーカー用アクティブイコライザーモジュール

こうしたアクセサリその他、CX263 にはマイクプライオリティ、ページング用マイクアクセスコンタクト、音楽ミュート端子、音楽信号に対するライン入力6プライオリティといった機能があります。

前面には最低限の操作部しか装備していません。ほとんどの操作部は、背面パネルの対応する入力コネクター付近にあります。マイク用のイコライザーは前面にあります。設定完了後は誤操作防止用のカバープレートを付けることができます。

②ダイアグラム



③開梱

この製品は工場出荷の前に入念に検品され、輸送中の取扱にも耐えられるよう梱包されています。この製品がお手元に届いたら、ただちに梱包を解いて検品してください。輸送中に損傷していた場合は、この製品をお求めの販売代理店までただちにご連絡ください。その際、輸送業者の検査に必要なため、梱包材はすべて、必ず保管しておいてください。この製品の内容物は下記の通りです。

- CX263…1 台
- 取扱説明書…1 部
- 入出力接続用ユーロブロックコネクタ…1 式
- 誤操作防止用カバープレート…1 枚
- 前面パネル貼付用シール…1 枚

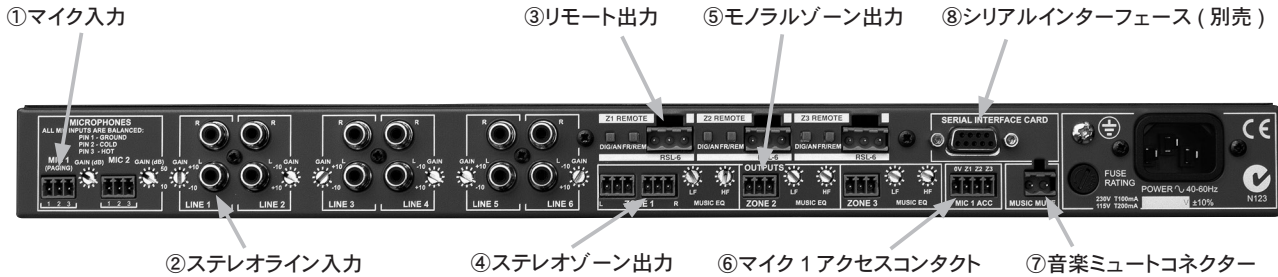
内容物が不足していた場合は、ただちにこの製品をお求めの販売代理店までご連絡ください。

この製品の設置、取扱については、事前に本書冒頭の「安全のために」でご確認ください。

④設置

Cloud CX263 ゾーンミキサーは、標準の 19 インチラックに 1U 分のスペースで収容することができます。本体の奥行きは 150mm ですが、コネクタの取り付けを考慮して 240mm 程度を確保してください。この製品を摂氏 35 度以上になる場所や、磁界を発生するものの近くで使用しないでください。

2 背面の機能



①マイク入力

2つともトランスレスの電子バランスで、ノイズ特性に優れた回路です。入力インピーダンスは2kΩ以上で、200Ωから600Ωのマイクが適しています。背面の3ピンミニユーロブロックコネクタで接続してください。

マイク入力のピンアサインは、1番ピンがグランド、2番ピンがコールド、3番ピンがホットです。

ファンタム電源供給機能

本体内部のジャンパーで +15V ファンタム電源を供給することができます。ジャンパー J1(マイク1用)、J2(マイク2用)をONの位置にしてください。

マイクのゲイン調整

マイク入力コネクタの隣に、半固定のゲイントリムがあります。ゲインの調整範囲は10dBから50dBです。ゲインの値にかかわらず、過負荷マージンは高く維持されています。

ハイパスフィルター

マイク信号はどちらも100Hzのハイパスフィルターを通過します。これは呼吸音やポップノイズを軽減するためです。この回路はバイパスできません。

マイク1のプライオリティ

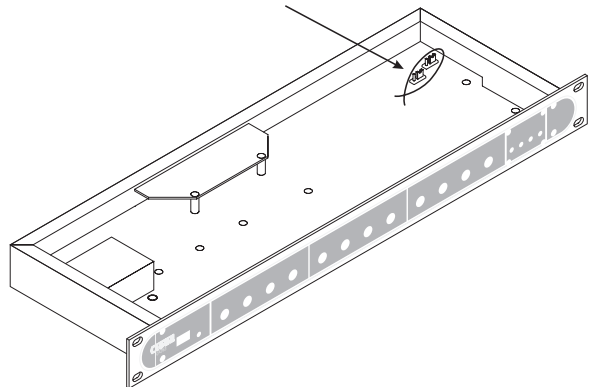
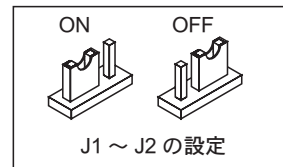
CX263のマイク1には、マイク2と音楽信号をダッキングするプライオリティ機能があります。プライオリティ機能がトリガーになると、マイク2の信号がミュートされます。各ゾーンの音楽信号に対する作用は、「音楽に対するマイクのプライオリティ」(P4)を参照してください。

マイク1のプライオリティは、各ゾーンのアクセスコンタクト、またはマイク入力で検出された信号をトリガーにして機能します。アクセスコンタクトをトリガーにできるのは、ページングマイクを併用しているときだけです。マイク1プライオリティを機能させるには、J16(ゾーン3用)、J17(ゾーン2用)、J18(ゾーン1用)を適切な位置に設定してください。ジャンパーは各ゾーンのマイク1用レベルつまみの後ろにあります。

AVO…マイク1の信号検出がトリガーになり、プライオリティが機能します。

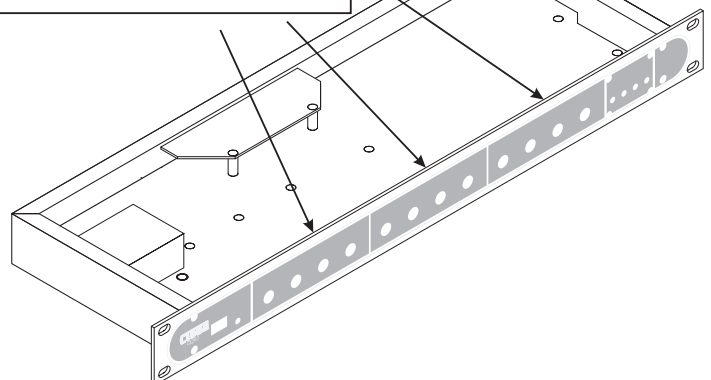
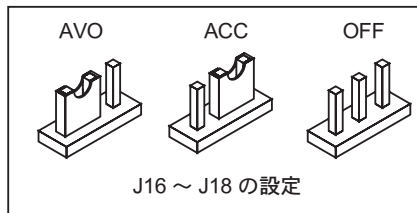
ACC…アクセスコンタクトの対応するピンがグランドにショートすることでトリガーになります(「マイクアクセスコンタクト」(P6)参照)。

OFF…ジャンパーを外してしまうと、マイクプライオリティは機能しなくなります。ジャンパーピンを外す場合は、一方のピンだけ差し込んでおき、将来設定を変更するときのために保管しておくことをお奨めします。



! ジャンパーを設定するときは

- 作業の前に必ず、本体から電源コードを抜いてください。
- 本体を組み立て直すときは、最初に使われていたネジだけを使用してください。



音楽に対するプライオリティ

マイクは両方とも、音楽信号をダッキングします。プライオリティ回路がトリガーになっている間、そのゾーンの音楽信号は 30dB アッテネートされます。プライオリティ回路が開放されると、音楽信号はスムーズに元のレベルまで戻ります。マイクに信号が検知されても、このプライオリティ回路が機能します。マイク 1 は、信号検知または背面パネルのアクセスコンタクトを通じて、この回路のトリガーになります。マイク 1 がトリガーになるメカニズムについては「マイク 1 のプライオリティ」(P3) を参照してください。

音楽に対するマイクのプライオリティを特定のゾーンで恒常的に無効にすることができます。そのためには、基板上でゾーンとマイク入力のトラックを切断してください。該当のトラックは基板上でマーキングされています。この方法では他のゾーンに影響することなくマイクのプライオリティを無効にすることができますが、元に戻すことができませんので注意してください。

②ステレオライン入力

CD プレイヤー、MD プレイヤーなどほとんどの音楽ソースに適しています。ステレオライン入力はすべてアンバランスで、RCA ピンジャックです。入力インピーダンスは 48k Ω です。

感度とゲインの調整

6 つのライン入力コネクタの隣には、ゲイン調整用の半固定トリムが付いています。入力感度の調整範囲は -18dBu(100mVrms) から +6dBu(1.5Vrms) です。半固定ゲイントリムは、前面パネルの音楽レベルつまみが最適な操作範囲で、すべての入力信号を CX263 の内部で同じレベルにすることができるように調整してください。

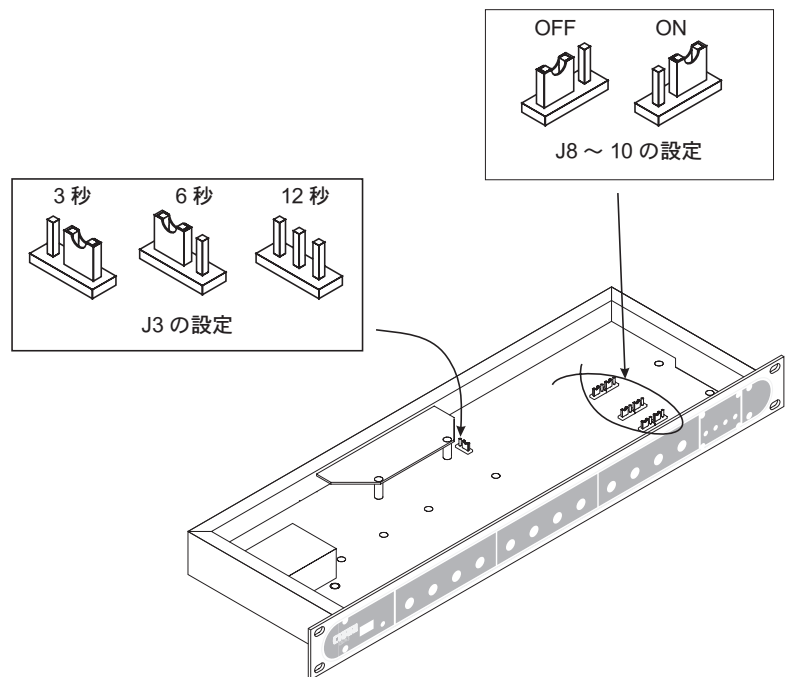
ステレオライン 6 プライオリティ機能

ステレオライン 6 入力信号で他の音楽信号をオーバーライドする機能があり、ゾーンごとに ON/OFF することができます。この機能はジュークボックスやスポットアナウンスペイヤーなどのソースを接続するためのものです。このプライオリティはステレオライン 6 に信号を検出したときだけ機能し、選択している音楽ソースをミュートして、ステレオライン 6 の信号を優先的に再生します。

ステレオライン 6 の信号が止まると、選択していた音楽がスムーズに元のレベルに戻ります。レベルが復帰するまでの所要時間は 3 秒、6 秒、12 秒のいずれかで、本体内部のジャンパー J3 の位置で設定します。ジャンパーの位置は右図をご参照ください。工場出荷時は 3 秒に設定されています。

このプライオリティ機能は、本体内部のジャンパー J8 から J10 でゾーンごとに ON または OFF にすることができます。1 つのゾーンにかかわる 2 つのジャンパーは、必ず同じ位置にしてください。ジャンパーを正しく設定しないと、プライオリティは正確に機能しません。

NOTE リリースタイム設定ジャンパーは、CX263 の全ゾーンに作用します。



ジャンパーを設定するときは

- ・作業の前に必ず、本体から電源コードを抜いてください。
- ・本体を組み立て直すときは、最初に使われていたネジだけを使用してください。

③リモート出力

各ゾーンの音楽レベルは、前面パネルと、CX263 から 100m 以内のケーブルで接続する壁面リモコンパネルのどちらかで操作することができます。

CX263 に互換性がある壁面リモコンパネルは Cloud RSL-6A または RL-1A です。シリアルインターフェース CDI-S200 でも調整することができます(「シリアルインターフェース CDI-S200」(P8) 参照)。RSL-6A や RL-1A は米国規格の電気ボックスに適合する大きさで、奥行きは 25mm です。

RSL-6A または RL-1A は一括シールド付きの 2 心ケーブルで接続してください。接続方法は右図の通りです。RSL-6A などの壁面リモコンパネルでゾーンを制御するときは、リモート出力コネクタの隣にあるスイッチを、FR/REM、DIG/AN とも押し込んでください。このスイッチは小さいので、ペン先など細いもので操作してください。

CX263 の単一ゾーンを RL-1A に接続するときは、ソース選択を前面パネルとシリアルインターフェース CDI-S200 のどちらで操作するか、CX263 の内部にあるジャンパー J19 から J24 で設定してください。ジャンパーの位置や設定方法は「シリアルインターフェース CDI-S200」(P8) を参照してください。



ジャンパーを設定するときは

- ・作業の前に必ず、本体から電源コードを抜いてください。
- ・本体を組み立て直すときは、最初に使われていたネジだけを使用してください。

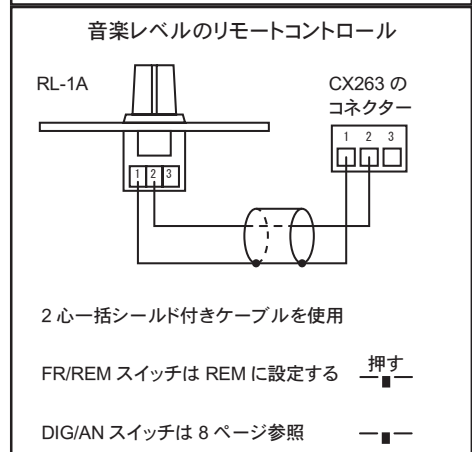
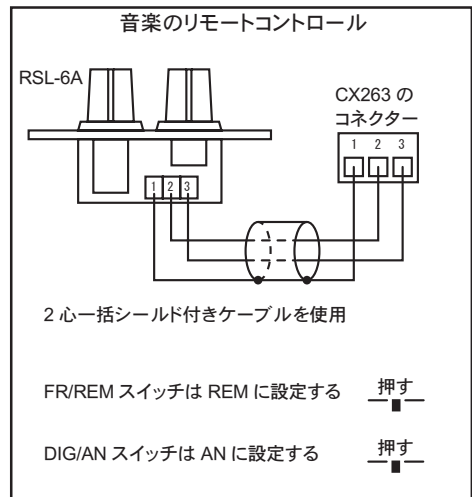
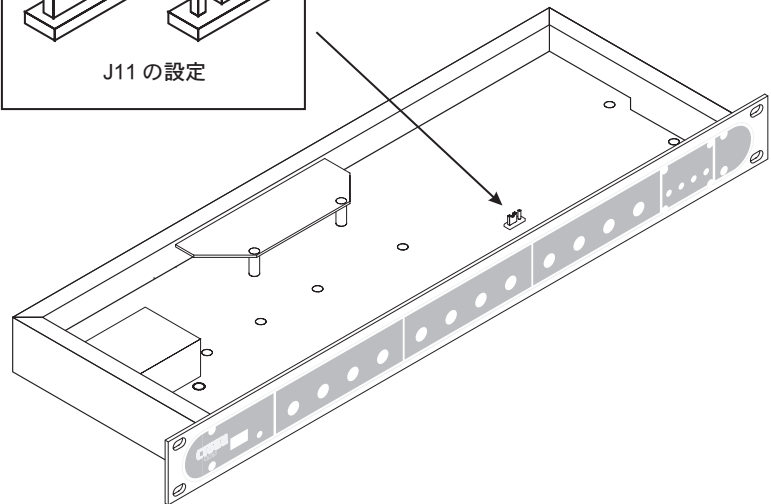
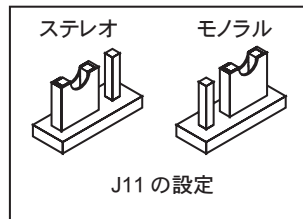
④ステレオゾーン出力

⑤モノラルゾーン出力

各出力ターミナルはバランスで、3ピンユーロブロックコネクタです。出力は 1.2k Ω という低い負荷で動作します。公称出力レベルは 0dBu(775mV) ですが、最大出力レベル +20dBu(7.75V) までの広範囲の信号で動作することができます。バランス接続には 2 心のシールドケーブルを使用してください。シールドを 1 番ピン、逆相 (コールド) を 2 番ピン、正相 (ホット) を 3 番ピンに接続してください。ゾーン出力をアンバランス入力に接続する場合は、ケーブルのシールドを 1 番ピン、正相 (ホット) を 3 番ピンに接続し、2 番ピンには何も接続しないでください。

アンバランス信号を長いケーブルで接続しないでください。アンバランス接続は、同じラック内など近くにある機器同士を接続するときだけ使うことをお奨めします。

ステレオゾーン出力はモノラルとステレオのどちらでも動作しますが、工場出荷時はステレオになっています。モノラルに切り替えるときは、本体内部のジャンパー J11 を移動してください。このゾーンをモノラルに設定すると、L と R の信号はサミングされてモノラルになり、両方のコネクタに出力されます。



音楽用イコライザー

音楽信号の特性を各ゾーンの音響環境やスピーカーに合わせて調整できるよう、イコライザーが付いています。半固定トリムで、各ゾーン出力コネクタの脇に付いています。イコライザーをフラットにするには、ステレオゾーンの場合は水平、モノラルゾーンの場合は垂直にしてください。

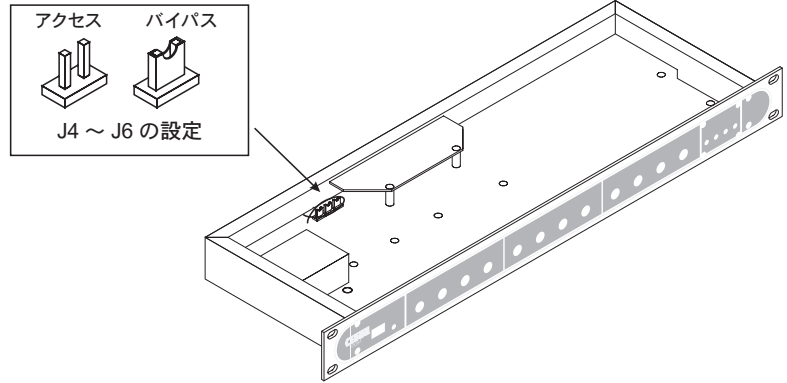
HF(高域)は 10kHz ± 10dB、LF(低域)は 50Hz ± 10dB です。

⑥マイク 1 アクセスコンタクト

このコネクタは、マイク 1 の信号を送るゾーンを決め、ページングマイクとしての機能を提供するものです。グラウンドにショートしたとき機能するため、多くのページングマイクと互換性があります。マイク 1 入力に通常のマイクを接続して使うとき、このコンタクトを内部ジャンパーでバイパスすることができます。J4 がゾーン 1 用、J5 がゾーン 2 用、J6 がゾーン 3 用です。位置は右図で確認してください。

ジャンパーピンを外す場合は、一方のピンだけ差し込んでおき、将来設定を変更するときのために保管しておくことをお奨めします。

工場出荷時、アクセスコンタクトはバイパスされています。特定のゾーンだけアクセスコンタクトを機能させる場合は、対応するジャンパーのピンだけを外してください。



ジャンパーを設定するときは

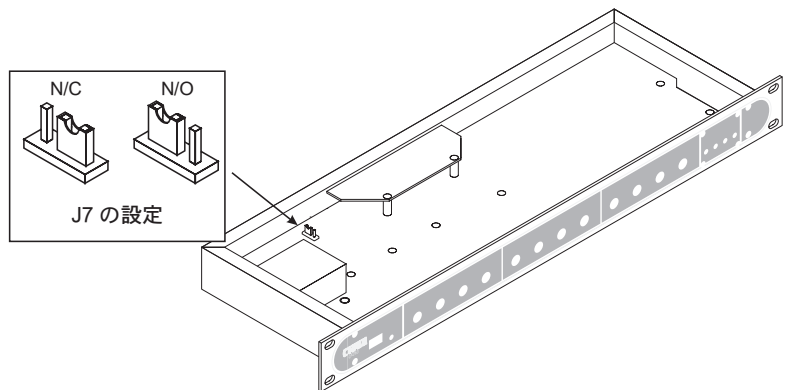
- ・作業の前に必ず、本体から電源コードを抜いてください。
- ・本体を組み立て直すときは、最初に使われていたネジだけを使用してください。

NOTE CX263 には電源供給ピンがないため、ページングマイクには外部電源部を用意してください。

NOTE シリアルインターフェース CDI-S200 でマイク 1 のアクセスを制限するときは、このマイク 1 アクセスコンタクトを使用可能な状態に設定してください。

⑦音楽ミュートコネクタ

商業施設や複合施設など、システムによっては全館緊急放送が流れたときに、音楽信号をミュートしなければならない場合があります。CX263 は音楽信号だけをミュートする機能を、完全にアイソレートされた 1 組のコンタクトで装備しています。通常は CX263 の近くに、緊急放送システムから電源をもらっているリレーを取り付けておきます。緊急放送の状態によってこのリレーが閉じるまたは開くことになります。CX263 がどちらの状態に反応するかは、ジャンパー J7 の位置で設定してください。



N/C…通常クローズで、リレーが開いたとき機能します。

N/O…通常オープンで、リレーが閉じたとき機能します。

工場出荷時は、N/O の位置になっています。

⑧シリアルインターフェース

CX263 には別売のシリアルインターフェース CDI-S200 を取り付けることができます。くわしくは「シリアルインターフェースカード CDI-S200」(P8) を参照してください。

3 前面の機能



①電源スイッチ

CX263 に電源を接続してこのスイッチを押すと、本体に電源が入ります。本体に電源が入っているときは、スイッチにある緑の LED が点灯します。

スイッチの隣には「MUSIC MUTE」という赤い LED があり、緊急放送で音楽がミュートされているときに点灯します (P6 参照)。

②音楽ソースセクター

ロータリースイッチを回して、各ゾーンに送る音楽ソースを選択してください。

③音楽レベルつまみ

音楽ソースのレベルをゾーンごとに調整することができます。

④マイクレベルつまみ

ゾーンごとに、マイク1とマイク2のレベルを個別に調整できるよう、つまみを装備しています。マイクレベルつまみを反時計回りに回しきると、そのゾーンのマイクは実質的に OFF になります。マイク 1 は背面パネルのアクセスコンタクトやシリアルインターフェース CDI-S200 で、ゾーンごとにミュートすることもできます。

⑤マイクイコライザー

マイク入力には 2 バンドのイコライザーがあります。前面パネル右下の半固定トリムでイコライゼーションしてください。特性はスピーチ信号の音色補正に最適化されています。HF(高域)は 5kHz ± 10dB、LF(低域)は 100Hz ± 10dB です。マイクイコライザーをバイパスする場合は、半固定トリムを両方もとも 0dBu(垂直の状態)に設定してください。イコライザーを調整したら、誤操作を防止するためカバープレートを付けることができます。

4 オプションモジュール

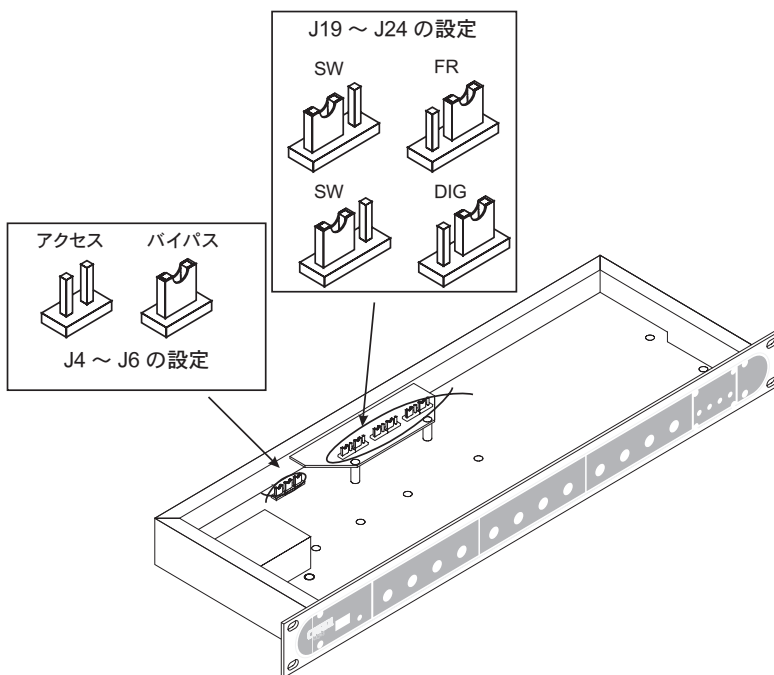
①シリアルインターフェース CDI-S200

CDI-S200 は、RS-232 準拠の CX263 用シリアルインターフェースカードです。CDI-S200 を使うと、下記の制御が可能です。

- ・任意ゾーンでの音楽ソースの選択とレベル調整
- ・各マイクのミュート
- ・音楽のミュート
- ・マイク 1 アクセススイッチの操作

取付方法

- 1) CX263 の電源を切り、電源アダプターを外してください。
- 2) 本体の天板を外してください。
- 3) 背面パネルの、シリアルインターフェース取付穴をふさいでいるブランクパネルを外してください。
- 4) D-sub 9 ピンジャックに接続されている六角スペーサーを外してください。
- 5) CDI-S200 が正しく動作するように、ポーレートとフロー制御を設定してください。本体に取り付ける前に設定されることをお奨めします。
- 6) CON2 の前にある M3 ネジと、すぐ左にある小さなダイオードネットワークのそばにある M3 ネジを外してください。両方とも基板上に大きな矢印でマーキングされています。ネジは保管しておいてください。
- 7) 手順 6 でネジを外した穴に、CDI-S200 に付属の 25mm 六角スペーサーを取り付けてください。
- 8) CDI-S200 のリボンケーブルを、CX263 メイン基板上の CON2 に接続してください。
- 9) CDI-S200 の上下を逆にして D-sub 9 ピンジャックを背面の取付穴にしっかり差し込んでください。このとき CDI-S200 の背面にある 2 つの穴を、25mm 六角スペーサーの位置に合わせてください。
- 10) 手順 4 で外した六角スペーサーを背面パネルの穴に通し、CDI-S200 のソケットに差し込んでください。
- 11) 手順 6 で外した M3 ネジを使って、メイン基板から突き出している六角スペーサーと基板の裏側を固定してください。
- 12) CDI-S200 で必要な制御が行えるよう、CX263 のジャンパー J19 から J24 と背面パネルのスイッチを設定してください。CDI-S200 であるゾーンの音楽機能を制御するとき、背面パネルの FR/REM スイッチを REM(押す)、DIG/AN スイッチを DIG(押さない) にしてください。
- 13) ジャンパー J4 から J6 でマイク 1 アクセススイッチをシリアル制御するかどうかを設定します。
- 14) 作業が終了したら天板を取り付けてください。



NOTE 基板のジャンパーにあるマーキングは、リンクの位置を表しています。

FR/SW ジャンパー	DIG/SW ジャンパー	DIG/AN スイッチ	FR/REM スイッチ	ソース選択	レベル制御
対応せず	対応せず	対応せず	FR	前面パネル	前面パネル
SW	SW	AN	REM	RSL-6A	RSL-6A
SW	対応せず	DIG	REM	CDI-S200	CDI-S200
SW	DIG	AN	REM	CDI-S200	RSL-6A または RL-1A
FR	対応せず	AN	REM	前面パネル	RSL-6A または RL-1A
FR	対応せず	DIG	REM	前面パネル	CDI-S200

音楽信号の操作機能とジャンパーと背面スイッチの設定・対応表

上の表は CX263 で選択可能な音楽信号操作機能の組み合わせで、音楽のソース選択とレベル制御に使う操作機能を定義する各ゾーン

のスイッチとジャンパー J19 から J24 の設定方法を表しています。音楽レベル調整は常にスイッチで、ソース選択は常にジャンパーで設定します。

CDI-S200 から CX263 を操作する方法は、CDI-S200 の取扱説明書を参照してください。

消費電力

CX263 は 80mA までの電力を内蔵モジュールに供給することができます。この限界を超えると、本体が加熱したりシャットダウンする原因になります。CDI-S200 カードの消費電力は 34mA です。

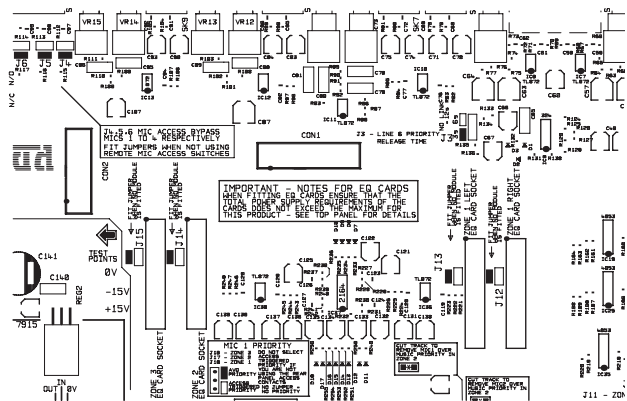
② BOSE 製スピーカー用アクティブイコライザーモジュール

各出力チャンネルには、BOSE 製スピーカー用のプラグインイコライザーモジュールを取り付けることができます。モジュールは種類によって消費電力が異なります。使用する前に、CX263 の電源に負担がかかりすぎないことをご確認ください。

取付方法

- 1) CX263 の電源を切り、本体から電源コードを抜きます。
- 2) CX263 の天板を外してください。
- 3) バイパスジャンパーを外してください。対応するジャンパーの番号と位置は、下表と下図で確認してください。外したジャンパーピンは一方の足にだけ差し込んで、保管しておくことをお奨めします。
- 4) BOSE イコライザーモジュールをコネクタに差し込みます。イコライザーモジュールはメイン基板に対して垂直にしてください。
- 5) ゆっくり力を加えて、イコライザーモジュールがかちっというまで押してください。
- 6) 天板を取り付けてください。

出力	ジャンパー
ゾーン 1 R	J12
ゾーン 1 L	J13
ゾーン 2	J14
ゾーン 3	J15



ジャンパー J12 から J15 の位置

消費電力

CX263 は、内蔵イコライザーモジュールに 80mA まで電源を供給することができます。この範囲を超えるモジュールを接続すると、CX263 は加熱してシャットダウンします。各イコライザーモジュールの消費電力は下記の通りです。

BOSE スピーカー用アクティブイコライザーモジュール	消費電力
BOSE-EQ(M8, M32, MA12, 402, 502A, 802, MB4, MB24, 502B, 502BEX)	12mA
BOSE-EQ(LT3302, LT4402, LT9402, LT9702)	17mA
BOSE-EQ(M16)	24mA

5 仕様

ライン入力

周波数特性	20Hz ~ 22kHz (+0, -0.5dB)
歪率	0.05% 未満 (20Hz ~ 22kHz)
感度	100mV(-17.8dBu) ~ 1.5V(+6dBu)
入力ゲイン調整幅	24dB
入力インピーダンス	48k Ω
ヘッドルーム	20dB 以上
ノイズ	-88dBrms (20Hz ~ 22kHz, 0dB ゲイン時)
イコライザー	HF: 10kHz / \pm 10dB LF: 50Hz / \pm 10dB

マイク入力

周波数特性	100Hz / -3dB (フィルター) 20kHz (\pm 0.5dB)
歪率	0.05% 未満 (20Hz ~ 22kHz)
ゲイン調整範囲	10dB ~ 50dB
入力インピーダンス	2k Ω 以上 (バランス)
ファンタム電源	+15V (基板上のジャンパーで ON/OFF)
CMR	70dB 以上 @1kHz
ヘッドルーム	20dB 以上
入力ノイズ相当	-128dB (20Hz ~ 22kHz; 0dB ゲイン)
イコライザー	HF: 5kHz / \pm 10dB LF: 150Hz / \pm 10dB

出力

出力	775mV (0dBu)
最小負荷インピーダンス	1.2k Ω
最大出力レベル	+20dBu (7.75V)

全般的な仕様

寸法・重量	483W \times 44H \times 150Dmm 2.15kg
電源	AC アダプター使用 100VAC 50/60Hz
消費電力	30VA 未満

製品の仕様及び外観は、改良のため予告なく変更する場合がございます。

保証

本機の保証はご購入後 1 年間となっております。

正常な使用状態で本体に不具合が生じた場合、正規のサービス担当者が無償で修理を行います。ただし、下記の場合は保証規定から除外されておりますので、あらかじめご了承ください。

- お客様による輸送、移動中の落下、衝撃など、お客様のお取り扱いが適正ではなかったために故障が生じた場合
- お客様のご使用上の誤り、不適正な改造、弊社の認可のない改造及び修理が行われている場合
- 火災、煙害、ガス害、地震、落雷、風水害などの天変地異、あるいは異常電圧などの外部要因によって故障が生じた場合
- 本機に接続している機器及び消耗品に起因する故障、損傷
- 正常な状態でのご使用中でも、自然消耗、摩耗、劣化によって故障あるいは損傷が生じた場合
- 日本国外でご使用中の故障、損傷

サービス・お問い合わせ窓口

製品の設置、使用法などのお問い合わせ窓口

東京 東京都中央区日本橋小伝馬町 10-1
☎ 03-3639-7800 (代表)
FAX 03-3639-7801

大阪 大阪府大阪市淀川区宮原 2-14-4
☎ 06-6152-7751
FAX 06-6152-7752

名古屋 名古屋市東区泉 1-23-30
☎ 052-950-3324
FAX 052-950-3325

福岡 福岡市南区大橋 4-16-18-201
☎ 092-554-6066
FAX 092-554-6064

営業時間 月曜日～金曜日 9:00～17:30
休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏期

ご質問は電子メールでも承ります。

✉ info@otk.co.jp

製品情報は下記の URL でもご紹介しています。

URL www.otk.co.jp

サービス・修理窓口

サービスセンター

〒359-0023 埼玉県所沢市東所沢 2-37-1

㈱サヤマトラフィック 敷地内

☎ 04-2944-3811

FAX 04-2944-3812

✉ repair@otk.co.jp

営業時間 月曜日～金曜日 9:00～17:30

休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏期